

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700350		
法人名	株式会社 一条		
事業所名	グループホームほろむい二号館 (やさし荘)		
所在地	岩見沢市幌向北2条1丁目611番地109		
自己評価作成日	平成23年8月2日	評価結果市町村受理日	平成23年11月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175700350&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175700350&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の生活もご家族のご協力と職員の良いチームケアを基盤に自分らしく安全・安全な生活を提供している。  
また、外出行事にも率先的に出掛け、月1回の温泉ツアーや季節に合わせた外出ツアー・地域での催し物への参加など入居者様の思い出に残る生活を提供して頂いている。  
防火体制万全で全館オール電化であり、スプリンクラー・緊急通報装置・火災報知機等の設置、カーテン・絨毯等の防災対策もしている。また、年2回の全体避難訓練も消防職員立会いのもと、日中・夜間を想定して行なっている。  
常勤の看護師を配置して日常的な体調管理や緊急の対応も協力医療機関との連携を取り対応している。  
ご利用者のご家族が宿泊できる部屋を完備し状態に応じて提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ふれあいの里グループとして、地域にデイサービス グループホーム、訪問介護サービス、介護相談センター等があり、共通の理念「安心して暮らす」「自分らしく」を基本とし、介護サービスを連携して行っています。その一つである当ホームは、町内会との交流も積極的に行い、毎月のように様々なイベント等を開催、温泉、買い物、誕生会等も毎月行うなど、利用者が自分らしく暮らす選択肢を多く提供しています。災害対策、定期的な訪問診療、かかりつけ医への受診支援なども整備され、職員の研修、サービスの質向上にも意欲的に取り組み、利用者や家族の安心と信頼を得ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議・ユニット会議を定期的に行い、理念を基に話し合いをしている。 また、新しい職員の方にもオリエンテーションの中で理念について一人一人が理解できる様説明している。	定期的に会議等で、理念の理解と認識を繰り返し行い、現場でのケアのあり方等についても、考え方の基本とするよう、職員へ周知、理解を求め、共有し、実践に繋げる努力をしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、草刈や花壇の手入れ、地域行事等にも率先的に参加している。地域児童館やボランティアの方々の受入れを継続的に行なっています。	デイサービス、訪問介護、介護相談、グループホームなどの施設がまとまって地域にあり、これらの事業を通し、地域の方々に認識されており、町内会行事等にも、積極的に参加し、ボランティアの受け入れなども行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の代表の方と地域との係わり方や定期的に町内会向けにお便りを地域に回覧しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に根ざしたグループホームのあり方や災害時などの協力体制等を市関係者や町内会の役員の方にもご出席頂き、出された意見を実践しています。	町内会代表、家族代表、民生委員、地域包括支援センター、市担当者の方々が出席し、利用者が地域の中で、安心して、自分らしく生活するための様々な方策について、活発に討議され、サービス向上に活かしています。	家族の出席が、どうしても偏りがちになるので、多くの家族の方が出席しやすい方法の工夫と、欠席された家族にも議事録を送付するなど、ホームへの理解と信頼に繋がる取り組みを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録やグループホームのお便りを届けたりと、その都度、運営上の疑問点や問題点などを話をさせていただくと共に電話などで連絡を取り合い市との繋がりに努めている。	市担当者は、ホームの推進会議にも出席しており、内容については把握しています。ホームでも議事録やホーム便りなど通じ、ホームの活動等を開示しています。必要に応じて、相談や助言等をいただく協力関係が築かれています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム長会議・ユニット会議で随時身体拘束を行わないケアを話し合い、全職員が身体拘束しないケアをマニュアルを基にし話し合い、理解したうえで実行している。	身体拘束防止検討委員会の設置、具体的なマニュアルも作成し、ユニット会議などで、職員に周知徹底と理解を図っています。現場においても、職員同士の注意喚起も行われています。玄関は夜間のみ施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、ホーム長会議・ユニット会議等で随時話し合いをしている。、常日頃から虐待行為につながらないように、口答ではありますが周知している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在発生はしていませんが、介護支援専門員を中心に内部研修の機会をホーム長会議やユニット会議に設け、職員全員に理解が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を掛け解りやすく説明し、疑問点を話し合いご利用者やご家族に理解・納得して頂き、署名・捺印を頂いている。その後の疑問点について随時対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より、利用者や家族等と職員が気兼ねなく話し、直接、意見・不満・苦情を伝えられる様な関係作りを心掛けている。また、伝えられた内容を検討・改善策を話し合い反映させている。	全体的に家族の訪問頻度が高いため、訪問時を利用し、利用者の生活状況等について、説明やコミュニケーションを緊密に取るようにし、理解と協力を得る努力をしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より、職員とのコミュニケーションをとり気軽に話せる環境を作っています。ホーム長会議やユニット会議にて意見を頂き、現場で反映させている。	実践現場での具体的なケアについて、普段より話し合いがあり、会議では活発に討議され、現場の状況を反映した意見や提案を得て、検討、運営に反映するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者が管理者や職員個々のシフト希望を基に作成を行っている。また、随時より働きやすい環境作りを話し合い改善できる様心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修・講習の情報があれば、随時、受講しています。そこで受講した内容を各ユニットにて報告会を兼ねてユニット会議内で研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に職員が参加する事により、外部事業者との情報交換や交流を行なっている。営業を兼ねて定期的に他事業所に伺い交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室を訪室し、ゆっくりと話せる機会と話しやすい雰囲気を作り会話を多く持つ事により、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やTELなどで状況を報告し、話しやすい状況作りに努め家族の不安や困っている事を聞き答えられる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常にその人にとってどの様な支援が必要かを考え、ご本人・ご家族と相談しながら決めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての尊敬の気持ちを忘れず、個々の能力を把握した上で、日常の生活を送って頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族はご利用者にとってキーマンとして捉え、スタッフとご家族で情報を共有し、適切な支援を提供している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・縁戚者だけでなく、知人等の来訪者の対応も行ない、ご家族にも、そのことを報告している。	美容室へ行ったり、かかりつけ医への受診や、自宅へ寄ったり、手紙や電話など、家族の協力を得ながら、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々入居者同士の会話交流が出来るように、心掛け、会話が乏しい時にはスタッフも参加し会話が保つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	街で会った時など、挨拶をしてホームの近況や利用者・家族の近況等を話すなどして、これまでの関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族との会話の中で希望を聞き、出来る限り意向に沿えるよう努めている。	利用者の生活歴、家族からの情報などをもとに、利用者の希望や状況変化などの気付きに注意して、把握に努め、利用者が自分らしく生活できるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族より、今までの生活歴を聞き記録に残し、スタッフは、これを把握しケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常にひとり一人を見守り、心身や体調の小さな変化にも気付けるよう努め、記録に残す事により、スタッフ間での情報の共有をはかり、ケアに活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族の意見・希望などを聞き、出来る限りそれに添える様計画の作成を行いケアに反映できるよう努めている。	利用者の希望、要望、家族の意見等をもとに、日々の生活状況のモニタリングや、ユニット会議を経て、計画作成されています。一人ひとりの利用者には、担当者がおり、日々注意深くモニタリングが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し日常の様子、本人の発言やスタッフの声掛けも、そのまま記録し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じ、通院や送迎など必要な支援に応じられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の清掃や花壇の花上などの行事に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携しているクリニックのドクターによる訪問診療を定期的に行なっている。また、ご本人・ご家族が希望される掛かりつけ医への受診も対応している。	利用者のかかりつけ医への受診は、家族の協力も得ながら、ホームでも支援しています。また提携クリニックの訪問診療も2週間に一回の割合で行い、適切な診療受診を支援しています。診療結果も家族と共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と介護職員が連携をとり、提携クリニックの医師、または掛かりつけ医師と相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ずお見舞いに行き状態を把握、ご家族と共に早期退院及び退院後の対応についてドクターと相談する。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の対応をどうするか、ご家族・ドクター・看護師・介護職員と話し合い対処している。	終末期の対応については、家族、医師、看護師、職員で連携し、検討しています。ホームでは、現状できる限りの対応を考えていますが、同時に、家族と特別養護老人施設への申し込みなども話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修による緊急対応講習の実施、緊急時直ぐに対応できるようサクシオン一式・AEDを備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常等・スプリンクラーの設置・消防署のご協力を得て避難訓練の実施、非常時に直ぐ召集できるように、職員連絡網を作成している。	年2回夜間想定避難訓練を消防署立会いで行っています。町内の見守り協力体制や、スプリンクラー設置、避難経路の確認、連絡網など、災害対策を構築しています。介護計画等、重要書類は布バックに保管し、非常時に持ち出せるようになっています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の人格を尊重した言葉掛けや対応をし、個人情報の保護に努める。	利用者の人格の尊重については、会議等でも話し合いが行われ、職員の意識向上に努め、利用者への尊厳ある接遇に注意が払われています。個人情報の管理も適切に行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るような声掛けをし、出来ない方には、毎日の生活の様子を把握し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の状態を把握し、その時々合った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容・美容・または行きつけの美容室を利用し、ご本人・ご家族の希望に添った対応をしている。 毛染めをしている方には介助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事が出来るよう、味の好みや歯ごたえなどを利き、人によってはキザミ食で提供している。	利用者の好みも取り入れ、栄養士がメニューを作成しています。行事食や外食など変化も取り入れ、食事を楽しめるよう支援しています。利用者も出来る方は職員と一緒に、準備や片付けを協働しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフはひとり一人の食事や水分の摂取量を把握しており、不足時は好みの物に変更し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ひとり一人の状態に応じて口腔ケアを行なっている。 また、口に溜め込まれている場合は全て取り出して清潔にしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンや表情・行動把握し、トイレ誘導しトイレでの排泄を心掛けている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っていますが、介護度の高い利用者が多いため、おむつ、パット、リハビリパンツなどを利用しながら、排泄の自立支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態や水分摂取量を把握し、散歩や体操に参加して頂き運動するよう働きかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望がある場合優先している。 また、入浴中は楽しまれるよう会話したり歌を一緒に唄ったりしている。	利用者の体調に配慮しながら、平均週2回は入浴しています。介護度の高い方の場合、職員2名体制で支援することもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の生活のリズムや状況に応じ、休んで頂いたり、ゆったりとして時間を過ごされる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は何度も確認をし渡している。 また、薬変更時はノートに記載する等し、スタッフ間で情報伝え、服薬後状態観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	隣接しているデイサービスや外出行事参加され気分転換し、日々の生活の中で掃除や洗濯物たたみ等、手伝って頂きながら、目的を持つ様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い時には声掛けをし散歩へ出掛ける、月に一度、外出等考え出掛けている。 また、他ユニットとの合同レク等も行なっている。	天気の良い日は、近くの公園などへ散歩に行ったり、町内会の行事や花火大会、ホームのレクリエーション行事などへ出かけることもあります。冬場の外出はなかなか難しいので、ユニット内でのレクリエーションや体操などを行うようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理されている人もいるが、数人である。 買い物があれば、ご本人様に伺い購入する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話をしたいと希望される事があり、スタッフが代わりに電話の取り次ぎ行なっている。 手紙も要望があれば、投稿など対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせる様、照明や窓のカーテンで調整する。 季節ごとに花を飾ったり、皆さんで工作した物や、スナップ写真を飾っている。	リビングは、日当たりが良く、テレビを見るなど、それぞれがゆったりと過ごしています。キッチンからはリビングが見渡せ、職員は見守りが出来るようになっています。季節を感じる飾りや、イベント等での写真を飾り、過ごしやすい工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファにて新聞やテレビ観賞、他の入居者の方との会話など楽しんで過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた個人の家具等を持ち込んで頂いている。 また、置き場所などもご本人の体調に合わせて、安全に過ごせる様、配置している。	居室には、収納スペースがあり、整理しやすくなっています。床暖房になっており、火災などの心配がない造りとなっています。使い慣れた家具や好みの写真などを飾り、過ごしやすい居室作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室等、わかり易いよう表示をして、場所を覚えて頂いています。		